

事業番号	09 03 06	事業改善シート(令和3年度実施事業分)		□当初要求 □当初予算案 □補正予算案 ■点検	
事業名	農業関係試験研究推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
		実施期間	不明 ~	E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp
総合5か年計画(しあわせ信州創造プラン2.0)					
8つの重点目標	①付加価値を高め、経済成長を実現				
総合的に展開する重点政策	2-4 収益性と創造性の高い農林業の推進		3-7 先端技術の積極的な活用・導入		

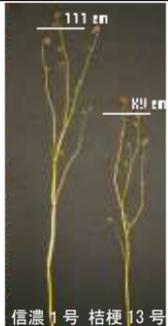
1 事業の概要

事業の現状・ 目指す姿 (予算編成時) 及び実施内容	【現状】 県内農業の持続的な発展のため、市場評価の高い長野県オリジナル品種の開発、低コスト・省力化を図るためICTや作業ロボットなどを活用したスマート農業の実現が必要となっている。また、減農薬など環境にやさしい農業技術や地球温暖化対策技術等、担い手不足や農家の高齢化等、生産現場の問題解決や要望に対応できる中長期的展望に立った技術の開発が求められている。
	【目指す姿】 ○国内外の市場において、マーケットインの販売や輸出戦略に対応できる新品種への育成、スマート農業生産技術など、生産性・品質向上技術等の新技術が開発されている。 ○地球温暖化等の中長期的な視点に立った課題に対応した新技術の開発が進められている。 ○基礎的な研究により、今後の開発される技術が生産現場に普及し生産性向上が図られている。 成果目標:長野県農業関係試験研究推進計画の技術開発目標230技術達成(R4年)
	【実施内容】 試験場施設整備、素材開発研究、県単プロジェクト研究など

指標の状況及び目標値 [↑:改善、↓:悪化、→:変化なし、—:数値なし]									
No	成果指標	単位	R1年度	R2年度	推移	R3年度	推移	R3年度目標値	達成状況
1	R4年までに技術開発を予定している課題の達成率	%	16 (H30-R4)	30 (H30-R4)	↗	46.5 (H30-R4)	↗	57	未達成
2	品種育成数	品種	2	4	↗	3	↘	1	達成
3	要望に基づいた研究着手数	課題	12	14	↗	27	↗	10	達成
4									
5									

区分(単位:千円)		R1年度	R2年度	R3年度
事業コスト	前年度繰越額	0	563,579	0
	当初予算額	557,140	410,852	538,534
	補正予算額	466,534	-58,078	-88,910
	合計(A)	1,023,674	916,353	449,624
	うち一般財源	151,074	126,041	144,719
	決算額(B)	456,739	896,116	427,121
職員数(人)		169.0	165.0	164.0

成果指標及び目標値の設定理由	1.本県農業の競争力の強化に向けた農業関係試験研究推進計画(平成30年より令和4年までの5か年)に掲げる230課題のうち、技術開発の進捗率を評価できる指標であるため。 2.消費者や実需者の多様なニーズに応える「魅力あるオリジナル品種の開発」及び、気候変動等に対応した「安定生産のための品種改良」の評価指標となるため。 3.「生産現場の課題を解決するための技術開発」の評価指標になるため。
達成状況の分析	1.R2年度末に推進計画(H30年度~R4年度)をスクラップ&ビルドで課題見直しを行い、5年間の目標をR3年度から230に再設定した。品種や技術の開発でより高い地球温暖化対応や環境への負荷軽減が求められるようになったため、目標のうち107(46.5%)に留まり目標達成できなかった。 2.農業関係試験場オリジナル品種を3品種(そば1、調理用茎レタス1、飼料用ソルガム1)育成し、目標を達成できた。 3.令和3年度に寄せられた要望事項の中で27の研究課題を設定し、目標を達成できた。

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○生産者から消費者まで幅広く評価される魅力あるオリジナル品種の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・二期作栽培が可能で倒伏しにくいそば新品種「桔梗13号」の開発 ・四季成り性イチゴ品種「サマーリカル」の生産性、品質、業務用適性を高める栽培マニュアルの作成 ○環境への負荷を軽減できる農業生産技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・コムギ赤さび病発生リスクを主要品種の感受性、気象条件に基づいて予測する技術の開発 ○産学連携によるAI等を活用した先進的な農業技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・レタス収穫機(切断機)のプロトタイプの開発 ○将来的な地球温暖化による影響評価と適応技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・今世紀半ばを想定した温暖化条件がりんご樹の生育、樹体内窒素濃度に及ぼす影響の解明 ○高位安定生産のための品種改良・技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ施設に侵入するダニの新たな捕捉技術(専用ダニトラップ)の開発 ・豚肉の脂肪含量が簡易に推定可能な脂肪交雑スタンダード「長野県オリジナルP.M.S」の開発 ○低コスト・省力・軽労化のための技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどう栽培における植物調節剤利用による新梢管理の省力化技術の開発 ○農業分野の知的財産権の保護・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・県オリジナル品種の国内外での種苗登録や商標取得による知的財産の活用戦略の推進 ○ゼロカーボンに貢献する技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・柿皮給与による牛第一胃内のメタンガス濃度の抑制 	<p>そば「桔梗13号」は草丈が短く倒れにくい</p>  <p>信濃1号 桔梗13号</p>  <p>レタス収穫機のプロトタイプ</p>
------	--	--

2 今後の事業の方向性

	課題等	今後の方向性
今後、事業をどのようにしていきたいか	<ul style="list-style-type: none"> ・農業現場の急激な構造変化に対応するため、農業をスマート化する技術開発と実用化が必要。 ・地球温暖化(気候変動)の農業生産に対する影響評価及び温暖化に適応した品種・技術開発だけでなく、二酸化炭素削減など緩和策としての技術開発が必要。 ・多様化した消費者ニーズに対応した品種や革新的な栽培技術の開発が必要。 	長野県農業関係試験研究推進計画に沿って事業を実施し、「日本をリードする研究力を活かした信州農業を革新する新品種・新技術の開発」及び「生産現場の課題を解決するための技術開発」、「地球温暖化対策」を柱に据え、研究を推進する。

事業名	農業関係試験研究推進事業	部局	農政部	課・室	農業技術課
-----	--------------	----	-----	-----	-------

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
1	運営費、農業関係試験場整備事業費、研究推進費、素材開発研究費	302,245 千円	180,893 千円	256,293 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)
1	試験場の運営・施設管理	直接	試験場の運営、施設管理を行った。
2	農業関係試験場の施設及び設備の更新	直接	農業関係試験場の施設及び設備の更新・導入により、技術開発の効率的・積極的な推進を図った。
3	試験研究の効率的な運営と知的財産管理	直接	試験研究の効率的な運営を行い、知的財産の管理や積極的な活用を促した。
4	農業生産現場のニーズに応えるための基礎知見の集積	直接	農業生産現場のニーズに応えるため、基礎となる「研究シーズ」を創出し、応用技術につながる基礎知見の集積を図った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
2	県単プロジェクト研究費	36,860 千円	33,189 千円	26,529 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)
1	生産現場の緊急要望へ対応するための短期間(3～5年)で集中的な技術開発	直接	生産現場の緊急要望へ対応するため、各部門から選出したチームにより短期間(3～5年)で集中的な技術開発を行った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
3	高度化等研究開発費	70,816 千円	72,377 千円	62,023 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)
1	農水省の競争的資金等を活用した国研や大学などとの協力研究による技術開発	直接	農水省の競争的資金等を活用し、主要農作物が直面する重要課題に対し国研や大学などとの協力研究により技術開発を行った。

細事業 No.	細事業名	R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
4	新資材試験等協力研究費	46,818 千円	46,153 千円	42,585 千円

No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)
1	国や民間企業、団体等からの委託された研究を活用した技術開発	直接	国や民間企業、団体等からの委託された研究を活用し、長野県農業の発展に貢献する技術開発を推進した。

細事業 No.	細事業名		R1年度 決算	R2年度 決算	R3年度 決算
5	畜産試験場養豚研究体制推進事業費		0 千円	0 千円	39,691 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和3年度 実施内容(実績)		
1	養豚技術の開発を支援するため畜産試験場の養豚研究を再開	交付金	CSFの発生により停止している畜産試験場の養豚研究を再開するため、種豚を導入するとともに実験機器・分析機器を導入し、多産系母豚の飼養管理技術開発やアニマルウェルフェア(動物福祉)に配慮した付加価値の高い飼育方法の開発等を行った。		